

「会津武士道について」の考察

中山麻衣

Budo Study Thesis

[Consideration: Abut Aizu Bushi Do]

Mai Nakayama

I 諸言

会津武士道とは、1643年今まで会津地方を治めていた加藤氏が改易となり出羽山形藩より入った保科正之（後に松平に改名）を藩主とした会津松平家による武士道を「会津武士道」と称する。

また、武士道とは、葉隠武士道（佐賀鍋島藩・山本常朝口述）薩摩武士道、三河武士道など多くが存在し、日本古来より武士の規範とされてきた。一説には、鎌倉時代に殺人集団であった武士に規律を守らせ鎮めるために形つけられた究極の掟に仏教・儒教などの教えを組み入れて育ってきたのが「武士道」と考察できる。

さて、今回のテーマ「会津武士道」についてその特性と目的について考察する。

II 方法

歴史的諸説から分析する。

「武道」という言葉が書物として登場するのは、大道寺友山（1639-1730）書の「武道初心集」により「武道」と記され「武道＝武士道」である。

また、佐賀鍋島藩の「葉隠武士道」も田代陣基（つらもと）が山本常朝の口述したものをまとめたのは、1716年ごろとされている。

また、拳法会においても「武道＝武士道」としている。これは、「メン・メン・ドー」とやる剣道は、武道でなく「剣技・剣術で武道とは、異質」と論ずる歴史学者・新田一郎氏（東京大学教授）と同じ見解にある。（剣術・拳法などの技の修練と武士道は、異質とする。）

然らば、1643年に松平会津藩が誕生した時に現在に伝わる「会津武士道」が哲学的に確立されていたか甚だ疑問に感じる。

基となる戦国期の「保科武士道」は、累々と継承されたものであるが1700～1720年ごろの江戸中期の『平和な安定期』にその「特性」「目的」をもって『会津武士道』が誕生したのではないかと歴史的に分析する。

III 特性と目的

時代的背景から戦争と動乱の時代に生まれた哲学（武士道）ではなく、『平和な安定期』に確立されたのが「会津武士道」と考察する。

然らば、その特性は、当然「平和と安定」を軸とし松平家（徳川幕府）の「平和と安定」の武士道であったと考える。当然、薩摩、長州など関ヶ原の戦いに敗れ苦汁をなめている戦時中の武士道とは、異なると考える。

会津藩校には、「什（じゅう）の掟」があるがまさに内容は、平和的な基礎からなっている。

- 1.年長者（としうえのひと）の言ふことに背いてはなりませぬ
- 2.年長者にはお辞儀をしなければなりませぬ
- 3.嘘言（うそ）を言ふことはなりませぬ
- 4.卑怯な振舞をしてはなりませぬ
- 5.弱い者をいぢめてはなりませぬ
- 6.戸外で物を食べてはなりませぬ
- 7.戸外で婦人（おんな）と言葉を交へてはなりませぬ

ならぬことはならぬものです。

また、この時代は、忠臣蔵・犬公方で知られる五代将軍徳川綱吉の時代で「捨て子」「姥捨て」「殺人」が横行し戦国気質が続いていた。丁度、源平の戦がおわり鎌倉幕府が猛り狂う殺人集団武士を鎮めるために武士道を説いたのと同じであったと考察する。

したがって、会津武士道は、「平和と安定」を軸にした目的・特性と位置付ける。

IVまとめ

会津武士道につき歴史的諸説からの分析により「平和と安定」を軸にした教えであることが明確となった。

戦後、占領軍 GHQ（昭和 20 年）武道禁止令、道徳の禁止令がだされ愚民化政策が行われ「武士道」には、悪のイメージが定着したが会津武士道においては、間違いである。

ここで考えねばならないのは、会津は、兵器の近代化がおくれ人材も乏しく戊辰戦争に無理やり引き込まれた挙句に戦争に突入し 3000 余人の尊い命が奪われた事実である。

この歴史的な事実は、先の大東亜戦争（太平洋戦争）も戊辰戦争と同じと言っても過言ではない。

更に今回のテーマ「会津武士道について」を武道学研究と分析し多くの人が認識する事は、恒久平和の道しるべとなる事を確信する。

引用・参考資料

PHP 研究所：会津武士道

田代陣基：葉隠武士道

三島由紀夫：葉隠入門

大道寺友山：武道初心集

武道の歴史とその精神：国際武道大学武道・スポーツ科学研究所

拳法会本部：武道拳法会の訓え

平成 30 年 8 月 28 日